

# CASBEE<sup>®</sup>-建築(新築) 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2014年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2014(v.2.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	新北九州市立八幡病院	階数	地上7F
建設地	北九州市八幡東区尾倉二丁目1-1他9筆	構造	S造
用途地域	市街化区域、防火地域、準防火地域	平均居住人員	1,094 人
気候区分		年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	病院	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2018年9月 予定	評価の実施日	2016年8月25日
敷地面積	22,402 m <sup>2</sup>	作成者	中澤大
建築面積	7,535 m <sup>2</sup>	確認日	2016年9月2日
延床面積	28,015 m <sup>2</sup>	確認者	宮崎修太郎



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.7** ★★★★★☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

☆☆☆☆☆

30%: ☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆ 80%: ☆☆☆ 100%: ☆☆☆ 100%超: ☆☆☆

標準計算

①参照値	100%
②建築物の取組み	84%
③上記+②以外の	84%
④上記+	84%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

Q1 室内環境: 3.7  
Q2 サービス性能: 3.6  
Q3 室外環境(敷地内): 3.5  
LR1 エネルギー: 4.0  
LR2 資源・マテリアル: 3.0  
LR3 敷地外環境: 3.2

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 3.6**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア= 3.7

音環境	3.0
温熱環境	3.7
光・視環境	3.1
空気質環境	4.8

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.6

機能性	3.2
耐用性	4.4
対応性	3.4

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 3.5

生物環境	2.0
まちなみ	5.0
地域性	3.0

**LR のスコア = 3.4**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア= 4.0

建物外皮の	4.0
自然エネ	4.0
設備システ	4.0
効率的	4.0

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.0

水資源	3.6
非再生材料の	3.0
汚染物質	2.7

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.2

地球温暖化	3.6
地域環境	3.0
周辺環境	3.0

3 設計上の配慮事項		
<b>総合</b>	「新しい病院の顔づくり」と「実効性のある環境負荷低減」をテーマとし、地域の基幹病院としてのアイデンティティを形成する。	
<b>Q1 室内環境</b>	<b>Q2 サービス性能</b>	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>
庇やルーバーにより日射の抑制を行い、かつペアガラスの採用により断熱性能を高めている。また、病室間の界壁には遮音性能を持たせ、室内環境の向上に配慮している。	維持管理の容易なディテールの採用、ワックスフリーの床材の採用などによる日常メンテナンスの頻度を抑える計画としている。病棟には、中庭に面したテイルームやプレイコーナー、ファミリールームを設置し、入院患者の療養環境向上に配慮している。	コンパクトな建物配置とすることで、敷地内に十分な空地を確保し、ロータリー計画や駐車スペースの確保、また良好なアプローチ空間を創出する。
<b>LR1 エネルギー</b>	<b>LR2 資源・マテリアル</b>	<b>LR3 敷地外環境</b>
西面にLow-eペアガラスを採用し、日射負荷低減を図るとともに条件に応じた最適運転を行うことで、空調設備にかかるエネルギーを削減する。また、自然エネルギー利用として井水熱利用を一部に採用している。	外構で用いる平板、アスファルト舗装等にスラグ、再生砕石などの再生利用材料を採用する。節水を図るため、井水利用や節水型衛生機器を採用し、水資源の保護に努める。	屋外機からの騒音や振動を抑制し、また、屋外機械置場周囲に、目隠しを兼ねた遮音ルーバーを設置する事で、意匠、設備の両面において配慮した計画としている。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される